

## 1. 経緯

G7は、ジェンダー平等に関するG7首脳への諮問機関である「ジェンダー平等アドバイザー評議会（G EAC）」の提言（G7自らの取組の監視・説明責任メカニズムとして、①G7+EUの国内/域内ジェンダー平等の進捗を図表化したダッシュボード（毎年）及び②右に基づく実施報告書（3年毎）を作成する。）を踏まえ、G7独議長国は、①のダッシュボードについてOECDに作成を発注し、本年6月のエルマウ・サミットのタイミングでG7首脳にダッシュボードを提出。

## 2. ダッシュボードの構成等

教育、雇用・社会保障、起業、リーダーシップ、健康・福祉、開発協力基金の分野から12の指標を選定し、図表化。図表は状況の推移（改善/悪化）やG7/OECD平均との比較における立ち位置が視覚的に分かり易くなるよう構成。（※G7間での比較を意図するものではなく、順位付けは行われていない。）

指標1: OECDによる生徒の学習到達度調査における数学得点のジェンダーギャップ

指標2: STEM分野の高等教育修了者に占める女性の割合

指標3A: 労働参加率のジェンダーギャップ / 3B: パートタイムに占める女性割合

指標4: 賃金のジェンダーギャップ

指標5: 無報酬ケア労働及び家事のジェンダーギャップ

指標6: 年金収入のジェンダーギャップ

指標7: 全就業者における自営業者の割合

指標8: 大手上場企業における女性取締役の割合

指標9: 下院又は一院制に占める女性議員割合

指標10: 親密なパートナーによる女性に対する暴力割合

指標11: 妊産婦死亡者数

指標12: ODAに占めるジェンダー平等案件割合